

今回は、11/3(木・祝)～6(日)に開催した「リリック演劇祭 vol.9 シアターゴイング2005」の報告をしたいと思います。県外からも劇団を迎え、盛況のうちに幕を閉じることができました。また、たくさんの皆さんにご来場いただき、ありがとうございました。

注目のシアゴークップ・シアゴークィング・シアゴークィーンの記事と、高校生審査員の講評、公演のミニレポート、お客様のアンケートなどを紹介します！



	15:00開演	18:00開演	19:30開演
11/3(木・祝)	heropro【新潟】 (第1スタジオ)	劇場自演隊 しばたちゆうとんち 【新潟】 (シアター)	
11/4(金)			長岡戯曲研究会 プロデュース【長岡】 (第1スタジオ)
11/5(土)	劇団わるだくみ 【長岡】 (シアター)	劇団110SHOW 【金沢】 (第1スタジオ)	
11/6(日)	TEAMサッカリンズ 【山形】 (第1スタジオ)	『ゲスト劇団』危婦人 【東京】 (シアター)	

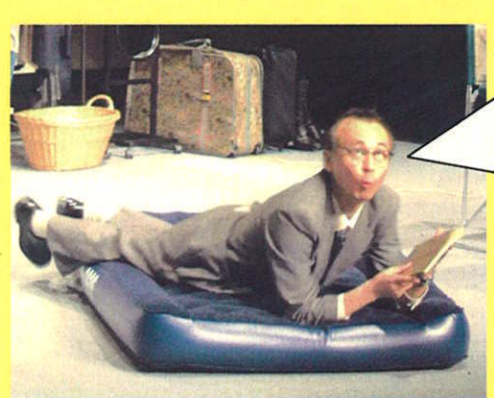
シアターゴイング通信 2005

最終号

平成17年12月25日発行
シアターゴイング実行委員会
Web: <http://www.nagaoka-caf.or.jp/>



★シアゴークップ
長岡戯曲研究会
プロデュース



★シアゴークィング
小林へろさん
(heropro)

★シアゴークィーン
田中みゆきさん
(長岡戯曲研究会
プロデュース)



【高校生審査員の講評】

	良い点	悪い点	全体の感想
heropro ＜新潟＞	禁煙セラピストの不器用さとはちゃけ具合。山崎さんの「私女優です」的な雰囲気。台詞のない時の間の取り方。セーラー服からスーツに着替えるセラピストに哀愁が。	セーラー服をいれた箱に紅茶を入れる所。日がたっているはずなのに服装や置いてある物の位置が変わっていないのが少し気になる。照明はもっと工夫できたはず。	結構難しいテーマだったが、重くなり過ぎず楽しんでみる事ができた。タバコを通して自分の人生を振り返り「きっかけが大切」だと言う事につなげたのがよかった。
劇場自演隊 しばたちゆうとんち ＜新潟＞	誰がどのキャラか分かりやすく、COLORSのメンバーの個性が光っていた。照明や音響もそれなりに効果的に使っていた。ラストシーンが爽やかだった。	ところどころに明らかにセリフくさいセリフがあって気になった。おもしろいんだけど客が置いていかれている様な感じ。段ボールのセットの使い方も今ひとつ。	色とりどりの登場人物たちが輝いていて、戦隊モノのような雰囲気があった。その反面、楽しめる対象者が限定されすぎている気がする。
長岡戯曲研究会 プロデュース ＜長岡＞	それぞれの役者が独特のクセのある役を演じていて、迫力があり存在感があった。全編を通じて笑わせるところが満載で、少し泣かせる様な所も自然に引き込まれた。	途中同じようなことを繰り返すところに間延び感があった。シリアスと笑いのシーンの差がもっとあると、よりメッセージがこもった芝居になるかも。	田中さんを中心としてパワフルでバランスの良い作品になっていて楽しむ事が出来た。演出のねらいが笑わせる事なら成功していたと思う。
劇団わるだくみ ＜長岡＞	手に汗握るアクションがすばらしい。映像をうまく使った演出が良い。シロの突き抜けた演技が良かった。原作を読んだことはないが世界観は伝わってきた。	暗転が多く目が疲れた。時々役者の声が聞こえなかった。内容が複雑で観客に伝わりにくかったと思う。様々な複線がストーリー上にあるのだから読み取れなかった。	映像、照明、役者を個々で見れば良いが、すべてを合わせた時あまり調和していない。抽象的なシーンが多く好みが変わるのでは。台本をもっと整理する必要がある。
劇団 110SHOW ＜金沢＞	役者の動きがダンスのように軽快で身体表現が良く出来ていた。一人何役もこなしていたが衣装に頼らず演じ分けていた。力のこもった語りが場を盛り上げていた。	情景を語りで表現するのは斬新だったが、最初少し混乱した。装置が何も無いので、何をしているか役者の動きだけで表現されても、分からない所があった。	演出がしっかりしていてストーリーもまとまりがあり、何がやりたいのかが分かりやすかった。役者の表現力が豊かでよく練習されていたと思う。
Team サッカリンズ ＜山形＞	照明と装置が上手に使われていた。台本がもつ不思議な感じが出ていたと思う。役者も堂々と演じていて、違和感無く芝居に集中できた。	最後がちょっとあっけない。平山が去るところが物足りなかった。家の中でも靴を履いているのが不自然。スクリーンに映っている文字が薄くて読みにくかった。	おもしろかったけど、疑問が残る作品だった。平山さんはちゃんと消えていったのでしょうか。あの3人はその後どうなったのだろうと想像してみるのも楽しみです。

※各劇団の上演ミニレポートは裏面へ！

heropro <新潟>

『MAUVE~ロケヴァージョン』

作：井伏銀太郎 演出：ナシモトタオ

主演映画の為に禁煙を命じられた女優と禁煙セラピスト。でも二人には意外な過去が……。小林へると山崎寿々の二人だけの舞台。芸達者な二人ならではの落ち着いた演技で観客を魅了しました。テレビでは見られない小林へるの役者としての真剣さだけでなく、セーラー服への着替えでしっかり笑いを取るあたり、心得者です。



演劇自演隊しばたちゅうとんち <新発田>

『COLORS』 作・演出：本間克彦

何でも屋の『カラース』に突如舞い込んできた行方不明の子供の搜索依頼。しかし事件はICPOも巻き込んで麻薬に絡んだ危うい方向へ……。



どちらかと言うとテレビ向きの脚本と言う意見もあるが、役名に色を使う事でキャラクターを際立たせるのに成功している。「シライさんが危ない！」のあたりはもう少し緊迫感が欲しかった。カラースの事務所での“ドンジャラでマージャン”が妙に受けていた。

長岡戯曲研究会プロデュース <長岡>

『のこされたモノ達をめぐるハーモニー』

作：田中みゆき 演出：井上きみ則

お茶目で放蕩な母が二人の娘に残したフローチャートのような遺言をめぐるコメディ。その辺の地方都市に本当にありそうなスナックのセットがリアリティを出しています。クラブ歌手で東南アジア？で謎の会社を経営する姉さんキャラの田中みゆきが、本領発揮でパワー全開。芝居が終わった後のお客さん参加型バラシパフォーマンスも大好評でした。



劇団わるだくみ <長岡>

『鉄コン筋クリート』

原作：松本大洋 演出：佐藤正徒 監修：高橋直也

シロとクロ、光と闇、バイオレンスとピュアネスが入り混じる独特の世界観を提示



した松本大洋原作のマンガを舞台化した意欲策。前回公演の『ゴメンバー』同様、ジョイントアクションクラブの参加でアクションシーンはオテモノ。アンケート回答率も高く、上演後に“例の掲示板”で賛否両論が巻き起こるなど、今最も注目されている。

劇団110show <金沢>

『大海原区の空』 作・演出：高田伸一

妖術を使える猫とその飼い主の若者が、大海原区の廃校となった小学校校舎に巣くう教頭さんとか科学室さんとかの不気味な妖怪と戦うはめに。



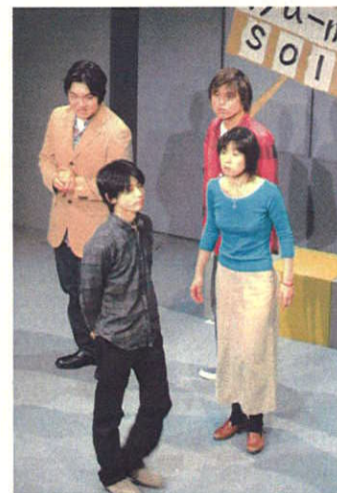
語り部による劇の進行が効果的。役者の冷めた演技の中にもドロドロとしたモノを感じさせる恐怖感があった。そこには同じ日に上演された『鉄コン筋クリート』とは違った質の光と闇が存在していた。演劇の可能性を感じさせる秀作に金沢のレベルの高さが見えた。

Teamサッカーリズ <山形>

『ハルシオン・デイズ』

作：鴻上尚史 演出：鈴木俊一

女性カウンセラー、性倒錯者の中年男、精神を病んだ青年、そしてもう死んでいる大学生がネットの中で出逢うこの物語は鴻上尚史が自作『トランス』を現代にリメイクした作品。深刻な内容ながら役者がそれぞれの役を誠実に演じているのが印象に残った。各シーンのキーワードを映写する演出も効果的。公演が始まる前に役者が舞台を歩いていたのは何か意味があったのか今でも気になってます。



劇団危婦人

『NINPU ~アイノカタチ~』 作・演出：スギ タクミ

東京からのゲスト公演を頂いた劇団危険婦人。今回の公演で彼女たちのファンになった人も多いようです。公演アンケートから主なものを紹介します。

すばらしかったです。重いテーマをコミカルに楽しませていただきました。(50代女性)
お母さんになることのすてきさと、なれることの大切さがわかりました。(10代女性)
所々恐ろしくて悲しくて、でもいっぱい笑いました。いろいろ考えました。(10代女性)
女性ならではの感性で美しくかわいくそして怖くてすてきでした。(30代男性)
男の自分では感じられない「妊娠」を題材にしている新感覚で楽しめました。(10代男性)
ニンプらしい動きをもう少しして欲しかったです。でも明るい舞台上で楽しめました。(10代女性)
あつという間の2時間でした。衣装も皆違って見るだけでも楽しかったです。(20代女性)
臨月コントをしたお二人は、いい味出してますね。(20代女性)

